

## 原爆症認定問題のすみやかな解決を要求します

人類最初の核戦争の惨禍から 63 年。広島と長崎の原爆はおびただしい命を奪い、いまなお多くの被爆者を苦しめつづけています。

広島・長崎の被爆者による、「国は、自分たちの病気や障害が原爆によるものだと認めるべきだ」という原爆症認定集団訴訟は、いま重要な局面を迎えていました。すでに 8 つの地裁、2 つの高裁で被爆者勝利の判決が下されました。

これらすべての判決は、残留放射線の影響の無視など、原爆被害を過小評価し、切り捨ててきた従来の原爆症認定基準をきびしく批判して、被爆状況や健康状況など全体的、総合的に判断すべきだとしました。

認定行政の誤りが否定しがたくなるなかで、国はついに見直しを迫られ、今年 4 月から新基準が実行されました。しかし、その後の判決が示すように、これもなお被爆の実際にみあっておらず、新たな線引きを行うものです。

国は、認定基準の再改定を認めず、裁判をつづけようとしています。これ以上、被爆者を苦しめることは許されません。私たちは、原爆症認定集団訴訟の早期解決と認定基準の再改定を強く要求します。

「人類と核兵器は共存できない」と訴えつづけた被爆者の声は、核兵器のない世界を求める大きな流れをつくりだしました。核兵器の廃絶と被害への補償によって、被爆者と遺族の苦しみが一日も早く癒されるよう、被爆者援護・連帯の世論と運動をさらにひろげていきましょう。

ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ナガサキ！ ノーモア・ヒバクシャ！

2008 年 8 月 6 日

原水爆禁止 2008 年世界大会 広島